

子供たちの「よりよいひとりだち」のために

学び向上 中津川プラン ～令和6年度全国学力テストの結果から～

※全国学力テスト（「全国学力・学習状況調査」とは、国語と算数（数学）、理科（令和6年度実施なし）、英語（令和6年度実施なし）の基本的な知識・技能と活用の力を測るテストと、学習や生活についての意識調査を行うものです。（小6と中3対象）

【市全体の結果】

小学校算数、中学校国語・数学は改善傾向です。小学校国語は課題が残ります。

【学力を伸ばすポイント】

「判断の根拠・過程を明らかにしながら理解すること（読解力）」

「ねばり強く取り組む家庭学習と読書習慣の定着（持久力、関心意欲）」

【学力テスト】



- ・国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」等、「思考力、判断力、表現力」に関わる問題の正答率が向上しています。特に、「書くこと」に関わる正答率が小中ともに伸びています。「知識・技能」に課題が残ります。家庭学習において漢字を何度も書いて練習したり、日記や生活記録を書く際に習った漢字を意識して使ったりすることが大切です。
- ・算数・数学は、小中ともに全国平均との差が縮まっています。領域に関わりなく、問題が尋ねている内容や用語の意味を正しく理解していないことによる誤答が多く見られました。日々の授業や家庭学習において、解答の過程を操作として覚えるのではなく、なぜそうなるのかを明らかにしながら理解することが大切です。

【意識調査】



- ・コロナ禍を契機に減少傾向にあった「夢や希望」「自己有用感」等に関わる質問項目について、前向きな回答をする子供が増えてきています。
- ・生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん等）の定着は、全国平均を上回っています。
- ・一人あたりの家庭学習時間は、中学校において増加の傾向にありますが、小・中ともに全国平均を下回っています。

◆市全体で、学力アッププログラム（生活・学習習慣づくり）・絆プランを続けている成果です。

◆学力向上のためには、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と家庭での学習時間を増やすことが必要です。

■市では

- ・学校を訪問し、子供たちの姿を通して、よりよい指導について指導・助言をします。
- ・先生方が主体的に学べる職員研修を工夫します。
- ・絆プラン（読書）を進めます。



今後さらに！

■学校では

- ・「学力向上一点突破」（各学校の学力を向上させるポイント）や学力テストで明らかになった自校の課題改善に取り組みます。
- ・「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めます。

■家庭では 学力アッププログラムと絆プラン（読書）の継続と認め励ましをお願いします。